

関西を創った先人の足跡 ●第8回「歴史街道」に行く

## 「日野商人」を生き育てた 御代参街道

近江は湖の国であるとともに、東日本と西日本を結ぶ  
回廊とも呼ぶべき街道の国。この近江を走る数々の  
街道のひとつが「御代参街道」です。

この御代参街道は土山を起点とし鎌掛(かいかけ)から  
日野に至り、ほぼ近江鉄道に並行して北へ向い  
石原、岡本を経て石塔寺の西を通り、今堀、八日市から  
五個荘町小幡で中山道と合流します。

江戸時代に京都御所から毎年、正月、5月、9月に  
伊勢神宮と多賀大社への代参(代って神仏に  
参詣すること)の名代を派遣。

伊勢参宮のあと土山を経てこの街道を通ったことから、  
「御代参街道」の名が生まれました。



日野商人の栄華が残る町並み



## 御代参街道は日野に残る、蒲生氏郷が夢の跡。

### 「お伊勢参らばお多賀参れ…」

「御代参街道」の名前の由来のひとつとなった多賀  
大社への代参。この多賀大社は、御代参街道の  
終点・五個荘から中山道沿いに北東約10kmの地  
に、いまも、参拝客の賑わいと自然の静かなたた  
ずまいという昔ながらの対照を見せています。

古くから「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢  
お多賀の子でござる」と謳われてきた多賀大社は、  
その詞どおり伊勢神宮の祭神・天照大神(あまてら  
すのおみかみ)を生んだ伊弉那美命(いざなみのみこと)、  
伊弉册美命(いざなみのみこと)の二神を  
祭る古社です。

天正16年(1588年)には、豊臣秀吉が、生母大  
政所の病気の折、この多賀大社に「…尚以て命  
の儀、三年、然らざれば二年、実に実にならざれば  
三十日にても延命候様に頼み思召され候」と延  
命祈願。孝心が通じたか、間もなく小康を得ます。  
秀吉は米一万石を奉納。社内の太閤橋、太閤  
蔵、奥書院庭園はこの時の築造と伝えられます。

このように多賀大社は、朝廷を始め武家や民衆  
の間で、延命長寿・縁むすびの「お多賀さん」と  
して、広く親しまれてきました。

### 「KING OF ZIPANGU」信長と蒲生氏郷

御代参街道に沿った町々の中でも、歴史遺跡  
の多い町といえば、蒲生郡日野町。平安時代末期  
より、藤原秀郷の末裔である蒲生氏がこの地を領  
していたとされます。

永禄11年(1568年)蒲生賢秀の代、いまNHK  
大河ドラマで話題の織田信長による近江侵攻が  
行われます。その時、佐々木六角側面に属していた賢  
秀は、信長軍との戦いをいったんは準備しますが、  
妹婿の神戸友盛の説得で信長に服します。この賢  
秀の子が、後に勇将として名をはせる蒲生氏郷(う  
じさと)です。

氏郷は弘治2年(1556年)、日野城(またの名を  
中野城)に生まれ、永禄11年、信長のもとに人質と  
して送られます。14歳の時、信長に従って初陣、伊  
勢の大河内城を攻め戦功をたて日野への帰郷を  
許されます。信長の娘を妻として——。天正10年  
(1582年)、本能寺の変。氏郷は信長の妻子を安  
土城から日野城に招き、かくまって籠城。明智光秀  
からの誘いを退けたことはよく知られています。

「日本の王(KING OF ZIPANGU)」になろうと  
した男、信長。その信長が夢と野望を賭けて築造し  
た安土城は、日野より御代参街道を北上、西へわ  
ずかに行った所に位置します。光秀謀反の報を聞

氏郷まつり(武者行列)



くやいなや、安土城に向い馬を駆り、御代参街道を  
走り抜ける氏郷(あるいはその使者)の姿が想像さ  
れます。

現在、日野町の上野田にこの蒲生氏郷の銅像  
が建立され、西大路には氏郷の活躍を偲ばせる中  
野城跡、武家屋敷跡が静かに残ります。

### 日野城下の繁栄から日野商人の誕生へ

日野といえば、近江商人の発祥の地。近江商人  
とは琵琶湖の東、いわゆる湖東・近江の国から出た  
商人を指すが、このうち日野出身の商人は特に「日  
野商人」と呼ばれます。

この近江・日野商人の起源も、同じく蒲生氏郷  
の時代にまでさかのぼることができます。それは、天  
正10年(本能寺の変のその年)、氏郷が日野城  
下に「楽市・楽座の掟」を出したことに始まります。  
これによって日野城下では、蒲生氏の庇護のもとに  
商業のみならず工業も興隆するようになり、日野鉄  
砲と称される大筒、小筒、玉薬や日野鞍などの軍  
需品を特産とするようになります。

氏郷はその後、豊臣秀吉に仕えて軍功をたて、天  
正12年、日野6万石から伊勢松坂12万石に増加  
され、さらに天正18年、小田原征伐の功績によって  
会津若松に転封され、42万石(後に92万石)の大  
名となります。蒲生氏の「国替え」。いったん日野は  
経済的衰退の憂き目にあうのですが、これによって  
日野と奥州との交流が始まり、その交流こそが「日  
野商人」の行商活動を生む母体となるわけです。

### 日野商人、往時の商業界をリード

奥州への道を求めた日野の商人たちは、京都  
へ行きまず古着を仕入れる。その文化的格差ゆえ  
に、奥州では京都の古着が珍重され飛ぶように売  
れる。帰郷の際には、奥州の紅花などみちのくの特  
産品を仕入れ、京都でさばく——。天秤棒を肩に、  
往復の遠い道程を歯をいしばり歩み、行商に全身  
全霊を打ち込んだのでした。

奥州や関東の各地では、広く上方の商品を持  
ち下る日野商人がいつしか快く迎え入れられるよ  
うになり、商品の中継所が関東に置かれます。江戸  
時代の初期には、それを拠点として、店を構えるに  
至ります。こうして、日野商人の多くが関東八州を中  
心に富を得るようになります。

江戸時代の中期を過ぎると、「日野大当番仲  
間」(商人たちの相互扶助と幕府の保護を得るた  
めの同業組合)という巨大組織の形成もあり、高い  
に成功する者が続出。日野売薬の正野玄三、近



御代参街道に今もこの道標



蒲生氏郷の銅像

# 大市場関八州で余すところなく発揮された、「近江・日野商人」の才覚。

多賀大社



江の豪商といわれた中井源左衛門、山中兵右衛門…。得た富は日野に持ち帰り、郷土のために多額の寄進をするともに、郷土に豪邸を建てていきます。この日野商人の栄華の足跡は、現在も日野町の岡本や大窪、清水などの町並みに残ります。白壁の上蔵、長い板塀に囲まれた家々。また、大窪には民俗史料館「近江日野商人館」、日野小学校には日野商人の銅像。その実像をリアルに見ることができます。

## 「商いの道」としての御代参街道

日野の男たちは、その後も長く、安定した職業として関東を主とする全国の出店を奉公するようになります。これを「おたなづとめ」と言ったそうです。少年期を過ぎて故郷を離れる時の最初の道程、そして年1回だけの帰郷、いとい、妻子、両親の待つ日野への最後の道程は、いまでもなく御代参街道に他なりません。

この御代参街道はいまでは、上山から笹尾峠越えて鎌掛に至る道筋は定かには迫れなくなっており、日野～石原、岡本～大塚間などのようにほとんど農道と変わらぬ所もあります。しかし逆に、それだけ昔の街道の姿を垣間見ることができるといえます。

日野商人の源流となった行商活動から後の「おたなづとめ」までの歴史。また、中世以来の市場町・八日市、そして日野と並ぶ近江商人の輩出地・五個荘の存在。これらを見れば、御代参街道は伊勢・多賀への参詣道であっただけでなく、とりもなおさず「商いの道」であったことがはっきり分かります。

## 御代参街道に匹敵する「びわこ新空港」

さて、今日の日野町は？ 広大な田園、丘陵、豊かな森林資源を生かし、農林業は高い生産性を誇っています。酪農では滋賀県トップの生乳生産、牛肉も有名。その他、製菓、日野米、日野菜、地酒、お茶、和菓子も…。



日野商人像

近年は丘陵地帯に造成された工業団地に全国から様々な先端企業が進出。ハイテク製品も日野から出荷されています。また、日野川の上流の蔵王地区には現在、農業用水の確保を目的とした蔵王ダムの建設が進められています(平成4年完成予定)。

さらに、昭和63年、滋賀県はびわこ空港建設予定地を日野、蒲生両町にまたがる丘陵地に決定(平成12年完成予定)。県内外から大きな注目を集めています。「ヒト」「モノ」「情報」の交流を飛躍的に促進するこの空港建設プロジェクトは、感傷を排してなお、かつて御代参街道が果たした歴史的役割を現代的に蘇らせるものといえるからかもしれません。



滋賀の空港建設予定地



日野城跡(中野城跡)